

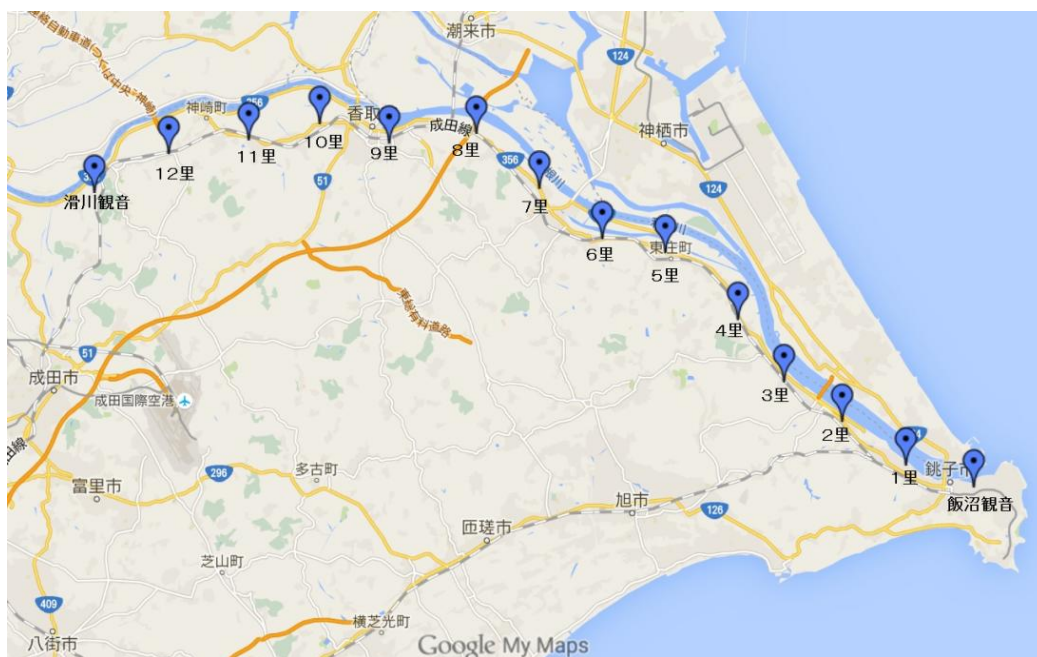
## 銚子街道の一里ごとの巡礼道標

加来 利一

銚子街道は江戸時代には「てうし道」と呼ばれ、坂東観音巡礼札所の滑川観音から飯沼観音にいたる巡礼道としても使われていた。この、街道に飯沼観音からの里程を示す道標が、同一人を願主として建立されている。この道標は、昭和六十一年度の千葉県教育委員会発行の歴史の道にも、「銚子街道に沿って観音像を浮き彫りにした石柱の道標が何点か現存していることが知られている。これは、天明三～四年頃に願主真水が建立した道標で、滑川観音より銚子飯沼観音の間に十二基建てられているという。この道標に記された文字は全て「飯沼観世音江何里」と飯沼観音までの里程を指し示している。そのことは言うまでもなく滑川から飯沼観音に向かって巡礼者が歩くことを予測しているのである。これは十返舎一九の「坂東順路の記」と一致している」と記されている。この道標については、過去、少なからず、調査研究が行われ、報告もされているが、この十二基が現状どのような状態となっているかを報告する。

なお、願主は報告書にある「真水」ではなく、「真永」か「眞永」であると思われるが道標の記字には、両方があって、特定できない。また、過去の報告書では十三基有ったとの記述もあるので、そのことと、願主について報告されたことの概要を述べる。

### 全体の位置図(以下地図はグーグルマップ)



道標一覽表

里程	場所	像容	記述内容	記年	備考
一里	銚子市 長塚町	仏 像	飯沼觀世音江一里 願主 真永 右 さくら 左 口	天明三卯正 月吉日	
二里	銚子市 高田町	仏 像	飯沼觀世音江二里 願主 真永 右 かけ通り 左 う ま道	天明三卯正 月吉日	1997年4 月再建
三里	銚子市 富川町	仏 像	飯沼觀世音江三里 願主 真永	天明三卯正 月吉日	
四里	銚子市 宮原町	仏 像	飯沼觀世音江四里 右 いち通り 左 うま道 願主 真永	天明三癸卯 正月建立	
五里	銚子市 大木戸 東町	仏 像	飯沼觀世音江五里 願主 真永	天明三癸卯 正月立之	
六里	香取市 阿玉川	仏 像	飯沼觀世音江六里 願主 真永	天明三正月 吉日	後年再 建
七里	香取市 下小堀	仏 像	飯沼觀世音江七里 願主 真永	天明三癸卯 正月建之	
八里	香取市 丸峯	仏 像	飯沼觀世音江八里 願主 真永	天明三癸卯 正月建之	下半分 埋没
九里	香取市 仁井宿	仏 像	飯沼觀世音江九里 願主 真永	天明三卯正 月吉日	
十里	香取市 森戸	仏 像	飯沼觀世音江十里 願主 真永	天明三癸卯 正月吉日	
十一里	香取市 西田部	仏 像	飯沼觀世音江十一里 願 主 真永	天明四甲辰 六月吉旦	
十二里	成田市 高	仏 像	飯沼觀世音江十二里 願 口 口口	確認できな い	地藏堂 内にある

一里



二里



三里



四里



二里道標は平成9年4月に再建されたもので、台石の正面に「交通安全」、左面に「再建の記 天明3年(1783) 飯沼観音より滑川観音まで道標の一つとして二里塚が建立された。昭和35年(1960)に道路工事で埋没したが、地元有志により、平成9年(1997)4月に発掘ただちに再建し衆生の加護と慈悲の光を放された。」という銚子市文化財保護審議会の大木衛氏の言葉が記されている。右面には再建者名と再建年月が記されている。

五里



六里



七里



八里



六里道標も再建したものであるが、会員の福本忠義氏の調査によると、十数年前に交通事故により破損したため、あらたに建立され、元道標は行方不明であるとのことであった。また、十三里道標についても、平成9年の常総新聞等に記録があり、福本氏の調査では、工事のため滑川観音の傍の信号機の付近に移設されていたが、平成11年頃、盗難に遭った（故滑川観音住職奥方の話）とのことである。

九里



十里



十一里



十二里



願主については、平成 9 年 11 月 23 日の常総新聞に、高森良昌氏（銚子市在住）の調査結果として、海上郡志に「大僧都海円上人の設けしものなり、上人は椎柴村塚本の人」「28 歳にして仏門に入り真永といいのち海円と改む」とあり、銚子市塚本町に御子孫が現存し位牌、巻物などを所有しているとの記事がある。